

### 今号の内容

ページ

- ◆風水害に備えよう 2~5
- ◆九州市長会が柳川で開催 6
- ◆春の叙勲 市内から3人が受章 7
- ◆ファミサポまかせて会員講習会 8
- ◆熱中症はこうして防ごう 9
- ◆市民のひろば(10-11) ◆川柳(11) ◆図書館・水の郷ニュース、柳川百選まち歩き(12-13) ◆情報わいど(14-19) ◆がんばったね・ぬくもり(19-20) ◆もちふみデビュー(21) ◆保健ガイド(22-23) ◆新市史抄片(24)



## ドンコ舟が水上カフェに変身

柳川観光振興プロジェクトチームは5月20日、川下りをしながら柳川のお菓子を食べるカフェ気分を味わう「どんこ CAFE」を開催。初めての企画に市内外から観光客や親子など約150人が参加しました。参加者たちは、市内13の菓子店の商品から好きなお菓子や飲み物を選択。選んだ商品をドンコ舟に持ち込み、沖端から足湯公園までの往復約40分間、舟に揺られながらティータイムを楽しみました。参加者からは「お菓子がおいしかった」「もう一度乗りたい」と好評の声が聞かれました。

## 「明・朱舜水書信展」の成果と課題

4月15日号の広報で紹介したように、3月27日から上海市松江区的程十髮芸術館で開催していた「明・朱舜水書信展」が、無事1か月間の会期を終了し、貸し出していた文化財も柳川に戻ってきました。

この展覧会については、地元の新聞「松江報」だけではなく、上海の有力紙「解放日報」などが相次いで報じ、新聞社のネット版を通じて中国各地へと広がりました。会期中7000人以上が会場に足を運ばれたようです。また日本でも共同通信社が発信したことで、佐賀新聞や静岡



朱舜水記念堂の様子



パネルの関係地図には「柳川」が表示されていない

新聞などで取り上げられました。

上海市松江區は、中国の明と清の時代に省府が置かれ、中国15大都市の一つとして栄えたところ。このため松江區の人は「松江は上海の根(根源)」であると言います。松江の歴史に自負があるのです。朱舜水は、余姚市(浙江省)の生まれですが、長じて松江に移ります。そのため、松江區の方塔公園内には朱舜水記念堂が設置され、郷土の偉人として顕彰されています。

しかし松江には、朱舜水に関する現物の史料はまったくありません。

記念堂内はパネルが設置してあるだけでした。そのため、今回の展覧会で朱舜水が安東省菴に送った手紙などの実物を中国で初めて公開できたことは、歴史を大事にする松江

の人にとって大変誇らしい、嬉しいことであつたようです。

会場出口には「安東省菴と朱舜水の交わり」と題した文章が中国語で掲げられ(図録にも収録)、舜水や菴の言葉を書いた日中書道展と併せて、柳川の安東省菴の名前を中国人たちに紹介できました。また、柳川観光案内展も同時開催し、柳川のPRもできました。

ただし、問題はこれからです。記念堂のパネルには、安東省菴の名前はわずか1か所しかありません。地図に柳川の表示はありません。記念堂では今回の展覧会と講演会の成果をうけて、全面的にリニューアルしたいとのことでしたので、柳川側から展示案やデータを提供することで合意しました。これでもできるだけ早く実現しなければなりません。この交流が、一過性のものにならないようにしたいものです。

最後になりましたが、県立伝習館高校をはじめ、本展覧会の実現にご尽力いただきました関係各位に、厚く御礼を申し上げます。

柳川古文書館副館長 田淵義樹

### 編集後記

●花にあまり興味はなかったが、庭先にさまざまな花が咲くことに気づいた。初春のウメに始まりツバキ、シャガ、シャクヤク、ツツジ、ヤマボウシ、ドクダミ、ニンジンに至るまで、個性豊かな花々が目を惹きつけてくれた。視点を変えると世の中の見え方も変わることを実感した。◎  
●家族で公民館運動会に参加した。取材というプレッシャーから解放された運動会は気楽で良かったが、4種目も出ることに。ムカデ競走なんて20数年ぶりである。息子と一緒に走る種目もあって、一緒に運動会に出るのもあと何回あるだろうかと思つとちよつと寂しくなつた。(賢治)

平成24年4月末現在

## 人のうごき

- 人口 71,203人 (前月比+22)
- 男 33,745人 (+18)
- 女 37,458人 (+4)
- 出生 45人、死亡 76人
- 転入 261人、転出 208人
- 世帯数 24,726世帯 (+70)